

参考聖書：エレミヤ書4:19-31; ヨハネの黙示録21:22-27

聖書箇所：創世記1:1-31

説教題：“創造2：区別としての創造”

詩編歌

頌栄 - 詩編117編

十戒朗読後 - 詩編36編 2,3

説教の前 - 詩編68編 7,8,9

説教の後 - 詩編23編1,2,3

頌栄 - 詩編18編 8,9,13

創造2：区別としての創造

今日、皆さんと共に学ぶ内容は、“^{ないよう}区別としての^{そうぞう}創造”です。今日も、私たちが忘れてはならない事は、“^{そうぞう}創造の出来事は本当に^{じじつ}事実であるのか”ではありません。創造の出来事に^こ込められている“^{ちゆうい}神様の御心を学ぶ”事です。神様は、この世を^{そうぞう}どういう御心を持って創造されたのかに、私たちは^{ちゆうい}注意を払わなければなりません。またさらに、神様の御心を^{そうぞう}弁えて、私たちが、次に、考えなければならぬ事があります。それは、私たちが、どのように生きる必要であるのかということです。今日も、そのような所に^{ちゆうい}注意を払って、神様の御言葉に耳を傾けましょう。

先月、私達は、“^{ちつじょ}神様はこの世に^{しかた}秩序を与えられる仕方で、この世を創造された”、ということを知りました。今日、私たちが共に学びたいのは、その^{ちつじょ}秩序は何であるかということです。“^{ちつじょ}秩序を持つようになった”という意味は何であるかということです。創世記1章にその答えがあります。神様がこの世に与えられた^{ちつじょ}秩序は、“^{くべつ}分けること”、すなわち、“^{くべつ}区別する事”です。もちろん、神様の創造は、^む無からの^{そうぞう}創造です。何も無い所に何かを^{ちつじょ}与えられて、創造することです。それは、^む変わらない事実です。それと共に、創世記1章に^{ききょうちよう}強調している事があります。神様が与えられた^{ちつじょ}創造の秩序は、“^{くべつ}分ける事”、すなわち、“^{くべつ}区別”する事であるという事です。今日、皆さんと共に学ぶ内容がこれです。

区別としての創造

まず、この事実を、^{かくにん}聖書を通して確認したいと思います。創世記1章に記されている神様が^{かんさつ}行われる創造を^{みだし}観察して見ると、その事実を見出す事が出来ます。

秩序を与えられるとは、“分ける”事。

1)

まず、神様が、^{かくにん}光を造られた出来事を、聖書は、どのように記しているのかを確認したいと思います。3節です。

“3 神は言われた。「^{ひかり}光あれ。」こうして、光があった。”

続けて4～5節を見ましょう。

“4 神は光を見て、良しとされた。神は光と闇を分け、5 光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。”

神様は、光を見て、良かったと仰せられました。その後、神様は光と闇を分け、光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれました。“夕べがあり、朝があったのは”、光が昼になり、闇が夜になってからです。

すなわち、神様は、第一の日に、光を創造されました。しかし、光を造られたその御業は、単に“光だけを造られる事”を意味するものではありません。光を造られた御業によって“区別”ができました。神様は、単に、無かった光を創造されましたが、それによって、反対側にある一定の境界線、区別ができました。他の言葉で言うと、神様が、“光”を創造されたのですが、“闇”というものが付加的に出来ました。また、その光が照らす時は“昼”になり、照らさない時は、“夜”になりました。

その事実から、神様の創造の大切な特徴を見出す事が出来ます。喩えで申し上げると、このような事です。もし、私たちが、石で、何かの像を作りました。私たちが、その像を作っても、その反対側に、何か出来る訳ではありません。しかし、神様の創造は違います。神様が、光を造られたのですが、反対側に何か出来ました。神様は、“闇”を創造された訳ではありません。しかし、“光”を創造されると、反対側に闇が出来ました。聖書は、そのような神様の御業を、“光と闇を分けた”と記しています。すなわち、神様が光を創造する御業によって、“反対になる闇が創造された”のです。

2)

そして、私たちは、神様が、光を創造された第一の日の出来事と同じく、その光を持つ“器である光るもの”を創造される第四の日にも、神様の創造の方法が、“分ける”という言葉で説明されているのを見つけることができます。

14節から18節を見ましょう。

14節で、神様は、“天の大空に光る物があつて、昼と夜を分け、季節のしるし、日や年のしるしとなれ。”と仰せられました。“分け”という言葉の意味は、4節で説明したことと同じです。“光る物”という言葉は、“光”そのものを示すより、“光る物”、すなわち、この言葉で十分説明出来るか分かりませんが、私は、“光る物”を“光を入れた器”だと言いたいのです。それで、第一の日に造られた光は、元の光であり、第四の日に造られたのは、その光を入れた器で、“光る物”です。具体的にいうと太陽、月、星が造られたという事です。

それに対する詳しい説明は、16節に記されています。

“ 16 神は二つの大きな^{おお}光る^{ひか}物^{もの}と星^{ほし}を造り、大きな^{ほう}方^{ひる}に昼^{おさ}を治めさせ、小さな^{ほう}方^{よる}に夜^{おさ}を治めさせられた。”

大きな光る物は、太陽^{たいよう}を現し、小さな^{ほう}方^{つき}は、月^{あらか}を現します。神様が、第四の日に造られた物は、光る物である、太陽と月、また星です。そして、聖書は、神様が^{たいよう}太陽と月、また、星を造られた出来事を同じく、“分ける”事だと記しました（14節です）。

創世記1章4節は、第一の日に、光が創造された出来事を“造られた”から進んで、“光と闇^{やみ}を分けた”出来事だと記しています。それと同じように、第四の日に、光る物が造られた出来事を、同じく、“分ける”事だと記しています。14節は、天の大空にある光るものが、昼と夜を分けた”と記してします。それで、18節は、次のように記しています。

“18 昼と夜^{おさ}を治めさせ、光^{ひかり}と闇^{やみ}を分けさせられた。神はこれを見て、良しとされた。”

昼と夜を治めさせるという意味は、“光と闇^{やみ}を分けさせられた事”です。

3)

この“分ける”という言葉は、光と光るものを造られた事だけに^{かぎ}限られて^{おおぞら}いるのではありません。神様は、第二の日に大空^{おおぞら}を造られました。大空を造られた方法^{ほうほう}は、直接に大空を“創造する^{ちよくせつ}方法”ではなく、“水と水を分けて”^{おおぞら}大空^{あらか}を現す方法^{ほうほう}でした。第二の日の創造の内容は、6節から記されています。6節～7節を読みます。

“ 6 神は言われた。「水の中に大空^{おおぞら}あれ。水と水を分けよ。」 7 神は大空^{おおぞら}を造り、大空^{おおぞら}の下^{した}と大空^{おおぞら}の上^{うえ}に水を分けさせられた。そのようになった。”

神様は第二の日には、“大空^{おおぞら}”を造られました。この大空^{おおぞら}は、先月学んだように、1節の天と地の中で、地に属している大空です。しかし、この大空を造られた出来事は、“水と水を分ける”事によってです。

^{じょうしきで}常識的に考えて見ると、何かを創造する出来事が“分ける”事によって行われる事はありません。私たちの日常^{にちじょう}の生活を考えると、何かを作る時、一つの物を分けて、全く違うものを作る事はあまりないと思います。^{ふつう}普通、私達が何かを作る時は、^{した}仕立て^あ上げたり、^{けず}削って^{つく}作ったり、^{ふぞく}色々な^く付属^たを組み立てる方法^{ほうほう}が多いと思います。

しかし、神様は、第一の日、光を造られた時にも、“光と闇を分ける”方法で、第二の日、大空を造られた時にも、“水と水を分ける”方法で、第四の日、光るものを造られた時にも、分けられる方法で、創造の出来事を行われました。それで、次のようにいう事が出来ます。神様の創造^{かんぜん}は、完全に、何も^{そうぞう}ない所からの創造であります。また、神様が^{ちつじょ}秩序^{ちつじょ}を与えられる創造とは、“分ける”事を意味します。

4)

そして、第三の日の創造の出来事を見みましょう。第三の日には、“分ける”という言葉はありませんが、実は、神様が、地、大陸を造られた出来事も、水と水を分けられた事によって、出来たものです。9節を見ましょう。

“9 神は言われた。「天の下の水は一つ所に集まれ。乾いた所が現れよ。」そのようになった。”

神様は、“天の下の水を一つ所に集まりました。”その後どうなりましたか。乾いた地が現れたのです。この出来事は、確かに、分ける事によって出来ました。

整理します。今まで、私達が学んでいる、第一の日、第二の日、第三の日、第四の日、全ての日に、神様が行われた創造の仕方は、“何かを区別される事”、すなわち、“分けられる事”です。神様の創造の出来が、そのように継続的な共通点を現しているという事は、本当に驚くべき事です。

神様は、“極めて一貫性を持って！”この世を創造されたのです。

もっと進んで

他の日の創造も同じ仕方で、行われた事を、皆さんと共に確認したいです。私達は、第一の日、第二の日、第三の日、第四の日、全てが、“分けられる方法”で、創造が行われたと学びました。それと同じように、他の創造の出来事も、“分けられる方法”で行われました。

もちろん、他の創造の出来事には、“分ける”という言葉はありません。しかし、神様が、そのように造られた大空と海、また地に、あらゆる食物、動物、魚などをどのように創造されて、配置されたのかの説明を見ると、神様の創造が“分ける事”によって行われたのであると分かるようになります。

神様が全ての動物を創造された出来事を説明する時、繰り返し使われている言葉があります。“それぞれ”という言葉です。その言葉もある意味で“分ける”事を示す言葉です。神様の分けるという創造を、植物に適用すると次のような意味になります。植物の種類が、それぞれ分けられて創造されたという事です。

1)

では、確認しましょう。第三の日の植物です。11～12節をみましょう。

“11 神は言われた。「地は草を芽生えさせよ。種を持つ草と、それぞれの種を持つ実をつける果樹を、地に芽生えさせよ。」そのようになった。12 地は草を芽生えさせ、それぞれの種を持つ草と、それぞれの種を持つ実をつける木を芽生えさせた。神はこれを見て、良しとされた。”

神様は、植物を“それぞれ”造られました。専門的な生物学の用語を知りませんが、私が知っている言葉で言い表すと、“分化”です。

創世記1章は、植物が創造された出来事を説明する時、“あらゆる種類の植物、区別された物”として創造された”と記しています。第三の日の創造の出来事を、今まで学んだことと同じく、“分ける”事で説明出来ました。創造の出来事は、“分ける”事です。聖書は、あいまいに、“神様が、沢山の植物を造られた。”と記しているのではありません。神様は、“それぞれ”、“あらゆる種類”に分けて、植物を創造されました。

2)

この“それぞれ”は、他の生物を創造された時にも同じく使われます。20節以下には、神様が海の魚と、地の動物、空の鳥を創造された内容が記されています。21節を見ましょう。

“21 神は水に群がるもの、すなわち大きな怪物、うごめく生き物をそれぞれに、また、翼ある鳥をそれぞれに創造された。神はこれを見て、良しとされた。”

魚や鳥の創造において中心となる説明方法は、“それぞれに”という言葉です。植物を創造された時と同じです。

3)

他の生物が創造された時の説明も見ましょう。最後の第六の日は、動物が創造された日です。24～25節を見ましょう。

“24 神は言われた。「地は、それぞれの生き物を産み出せ。家畜、這うもの、地の獣をそれぞれに産み出せ。」そのようになった。25 神はそれぞれの地の獣、それぞれの家畜、それぞれの土を這うものを造られた。神はこれを見て、良しとされた。”

植物と動物が創造された時、繰返し用いられる言葉も、“それぞれ”です。神様は、動物を創造された時にも、同じく、“それぞれ分けられる方法”で、ご自身の創造を行われました。

この全ての事実を黙想する意味

今まで、私達が、学んだ内容を黙想するのが大事です。神様は光と光る物を造られた時、生物の生きる場所である海と大空、そして、地を造られた時、“分けられる方法”で、この世を造られま

した。その後、そのように造られた空間を満たしている植物、生物、動物を造られた時にも、“それぞれに”、すなわち、“種類に分けて”各個体を創造されました。

神様の創造の仕方は、明らかに、“分ける”事です。これを、先月学んだ、“神様はこの世を無秩序から秩序に進む方向で造られた”という言葉と共に考えて見ると、その“秩序”とは、“分ける”という意味です。神様の創造は、無秩序から秩序に進む方向で行われました。秩序に向かうという意味は、分けられる事、区別される事、細分化され、区別される仕方であるという事です。これが、神様の創造の特徴です。神様の創造の意味を弁えて、神様を愛する事を願っている人であるならば、この事実を覚えなければなりません。

では、なぜ、“分ける方法”であるのか

では、なぜ、“分ける方法”であるのでしょうか。神様は、創造の世界に秩序を与えられる為に、なぜ、“分ける方法”選ばれたのでしょうか。

神様がこの世を創造されたという意味は、神様の秩序を、神様の息を、この被造世界に吹き込まれたという事です。そのうえで、“分けられる事”は、神様の御心がより良い所に、より完全な方向へ進む事だと言えます。すなわち、“分けられる時”、神様の御心は、もっと具体的に現れるという事です。なぜ、そのようになるのでしょうか。その意味を弁える事が大切です。私たちは、単に、“創造の出来事は分けられる事”だと言ってはならないのです。“なぜ、分ける事であるのか”まで説明しなければなりません。

聖書に記されている“分ける”という言葉の意味。

神様は、“分ける方法”で、この世を創造されました。それが、この世で、どのように示されたのかを調べる必要があります。“分ける”という言葉が記されている代表的な聖書箇所を皆さんに紹介いたします。出エジプト記26章33節です。

1)

“33 その垂れ幕は留め金の下に掛け、その垂れ幕の奥に掟の箱を置く。この垂れ幕はあなたたちに対して聖所と至聖所とを分けるものとなる。”

“垂れ幕”という言葉があります。“垂れ幕”の役割が何であるかも記されています。“この垂れ幕は、あなたたちに対して聖所と至聖所とを分けるものとなる”

聖所と至聖所を区別するす為に。その間には、“垂れ幕”がありました。至聖所は、年に一回大祭司が贖いの供え物を携えて、入る事が許されている所です。それ以来、入ったら殺されました。聖なる所と、最も聖なる所を区別する役割をするのが、“垂れ幕”でした。その“垂れ幕”の役割を説明する時“分ける”という言葉が使われています。

2)

もう一箇所見ましょう。レビ記20章24～26節です。

“²⁴ わたしはあなたたちに言う。あなたたちは彼らの土地を得るであろう。わたしはそれをあなたたちに得させるであろう。それは、乳と蜜の流れる土地である。わたしはあなたたちの神、主である。わたしはあなたたちと諸国の民を分かちつから、²⁵ あなたたちは、清い動物と汚れた動物、清い鳥と汚れた鳥とを区別しなければならない。動物、鳥、すべて地上を這うものによって、自らを憎むべきものにしてはならない。これらは、わたしが汚れたものとして、あなたたちに区別することを教えたものである。²⁶ あなたたちはわたしのものとなり、聖なる者となりなさい。主なるわたしは聖なる者だからである。わたしはあなたたちをわたしのものとするため諸国の民から区別したのである。”

26節の最後に“わたしは、あなたたちを、わたしのものとするため諸国の民から区別したのである”という言葉があります。“区別”という言葉の原文の意味は、“分ける”です。神様は、イスラエルの人々を、すなわち、神様の選ばれた人々を、諸国の民から区別されました。その時、“分ける”という言葉が使われたのです。

3)

レビ記20章25節の言葉も読んでみましょう。

“²⁵ あなたたちは、清い動物と汚れた動物、清い鳥と汚れた鳥とを区別しなければならない。動物、鳥、すべて地上を這うものによって、自らを憎むべきものにしてはならない。これらは、わたしが汚れたものとして、あなたたちに区別することを教えたものである。”

神様が、動物を区別された理由は、本当に、簡単です。イスラエルの人々の健康の為では決してありません。“イスラエルの人々が、区別された民”であるからです。レビ記20章24節と、26節は、神様が、イスラエルの人々を、選び出して“区別”して下さったと記しています。彼らは、特別な存在になりました。24節と26節の間には、聖なるものになるための規則が記されています。25節です。神様が、動物を清い動物と汚れた動物に分けた理由は、また、その動物たちが本質的に清いものであり、汚れたものであるからではありません。神様が、そのように分けた理

由は確かです。その動物を通して、イスラエルの人々が、“この世から^{くべつ}区別された事、分けられた事”を^{あらわ}現すようにするためです。

「神様は、なぜ、“分ける方法で”この世を創造されたのか。」

それで、神様がこの世を創造される出来事を通して示されている事は明らかです。神様は、私達が、^{けが}汚れたことから、^{きよ}分けられて、清くなり、また、^{けが}汚れたことから分けられて、^{きよ}もっと清くなり、^{あく}悪から分けられて、^{ぜん}善になって、^{くべつ}区別される事を願われました。神様の民と教会は、この^{ほうこうせい}方向性を持って、前に進まなければなりません。“世界と同化する”、“世界と一つになる”^{ほうほう}方法ではありません。私達は、^{そうぞう}創造の時から、^{ほうほう}分ける方法で生きるように定められました。それで、私達が、神様の創造の出来事を通して学ばなければならない事は、私達は、^{くべつ}区別された神様の民であるという事です。^{きよ}清い者として、^{とくべつ}特別に^だ選び出されて、^{くべつ}区別された者なので、世の人々と、世の^{ぶんか}文化と^{だきよう}妥協しようとも、一つになろうともしてはならないという事です。

もちろん、次のように質問される方もいるかも知れません。“神様がこの世を^{そうぞう}創造された時、^{けが}汚れた物はなかったのではありせんか。先生は、^{だらく}墮落の^{いぜん}以前の^{せかい}世界は、^{ぜん}善だと^{きよ}清い物だと言ったのではありせんか。創造の時には、^{あく}悪も^{つみ}罪もなかったのであるならば、^{けが}汚れた事、^{ひか}控えるべき事もなかったはずです。それなのに、なぜ、分ける事が必要であるのですか。”

前回学んだ内容を思い起こして下さい。神様の創造の出来事は、^{かんぜん}完全であり、全てが善です。しかし、神様は、その^{じょうたい}状態に^{とど}留まられるのではなく、“もっと良い^{じょうたい}状態に”進まれる事を願われました。それで、次のように言う事が出来ます。水と水とを分けて、^{おおぞら}大空が^{あら}現れた事は、“もっと良い事”です。しかし、水と水とが^あ合わさる事は、^{あともとど}後戻りです。神様の^{ちつじょ}秩序は、もっと良い^{じょうたい}状態へ進む為に、水と水が分けられる方法へ進まなければなりません。逆に行ってはなりません。

そのような^{ちつじょ}秩序と^{ぎやく}逆に^{だいひょうてき}進んだ代表的な出来事を、私達は知っています。ノアの^{だいこうずい}大洪水です。ノア洪水は上水と下水が再び^あ合わさる出来事でした。このように進むのは、人間の^{だらく}墮落以前においても、神様の御心ではありませんでした。神様の御心は、^{くべつ}区別、^{きよ}分ける事を通して、前に進む事です。水と水とが^あ合わさる事によって、^{つち}土が^き消え去る事、それぞれの^{しよくぶつ}植物が、^{くべつ}区別なしに^は生える事は、神様の御心ではありません。神様の創造の^{ほうこうせい}方向性は、^{きよ}分けて、前に進む事です。光と闇は全て善であり、神様がそれらを創造された時は良い^{じょうたい}状態でした。

しかし、神様は、もっと良い状態になるように、それらを分けられたのです。それで、^{やみ}闇と^{ひかり}光が^ま混ぜられる事、^{くべつ}光と^{くべつ}闇が^{そんざい}区別されずそのまま存在する事は、神様の御心ではありません。墮落以前の世界においても、神様は^{きよ}分ける事によって、もっと良い状態に進む事を願われました。墮落以前の世界においても、神様は^{ほうこうせい}分ける方向性を示されました。それで、^{だらく}墮落後の世界を^ご生きている私達は、神様の創造の意味をよく弁えて、神様の御心に^あ適う^{しんぎょう}信仰生活をしなければなりません。

愛する皆さん～

救済は、創造の継続的な行為です。それで、救済を“再創造”、すなわち、再び創造される事だと言います。神様は、墮落後の世界においても、創造の時の方向性を持って、世と教会を区別されました。諸国からイスラエルが選出されて、区別された事、この世から教会を区別された事、それらは、神様の創造のお働きの継続です。

では、教会はどのように働く必要があるのでしょうか。聖なる信徒の信仰生活はどうなる必要がありますか。答えは、この世との区別です。私達は、何をしても世と区別した信仰生活をしなければなりません。なぜなら、神様は、汚れた者と清い者を区別する事を願われて、私たちを選び出して下さったからです。私たちを“ご自身の民”として区別して下さいました。

整理

創造の出来事を学ぶという意味は、創造主である神様について学ぶ事です。創造の出来事を学ぶという意味は、科学を学ぶ事を意味するものではありません。創造主である神様の御心を学んで、神様の御心に従って生きる為に、私たちが何をすることが必要があるかを考える事です。無秩序から秩序へ進んで行く、神様の御心を通して、この世で、どのように生きる必要があるかを学びました。

ですから、分ける創造を行われた神様の御心を通して、私たちが学ばなければならない事は、聖なる生き方です。神様は、私たちを世の人々から選出して、区別して、聖なるものにして下さいました。その神様の御心に適う信仰生活をする皆さんになるようにお祈りいたします。